

## I. 導入

おはようございます。先週の聖書箇所の最後で、パウロはリストラで石打ちに遭いましたが、命は助かりました。その後、パウロとバルナバは別の町に移りました。使徒 14:20b にはこうあります。「そして翌日、バルナバと一緒にデルベへ向かった。」考古学者たちは、デルベの遺跡がこの写真の丘の下に眠っていると言います。デルベはかつて、ローマ帝国の主要都市でしたが、今では町の遺跡でさえ何世紀にもわたって積もった塵と雑草に埋もれています。



今日の聖書箇所の冒頭で、パウロとバルナバは、デルベで福音を語っています。では、使徒 14:21-28 を読みましょう。

## II. 聖書朗読

14:21 二人はこの町で福音を告げ知らせ、多くの人を弟子にしてから、リストラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返しながらか、 14:22 弟子たちを力づけ、「わたしたちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」と言って、信仰に踏みとどまるように励ました。 14:23 また、弟子たちのため教会ごとに長老たちを任命し、断食して祈り、彼らをその信ずる主に任せた。 14:24 それから、二人はピシディア州を通り、パンフィリア州に至り、 14:25 ペルゲで御言葉を語った後、アタリアに下り、 14:26 そこからアンティオキアへ向かって船出した。そこは、二人が今成し遂げた働きのために神の恵みにゆだねられて送り出された所である。 14:27 到着するとすぐ教会の人々を集めて、神が自分たちと共にいて行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した。 14:28 そして、しばらくの間、弟子たちと共に過ごした。

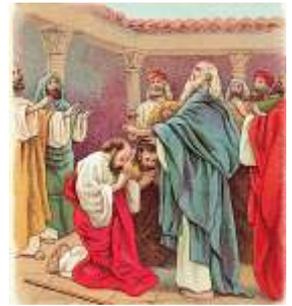
## III. 教え

デルベで大勢の弟子を信仰へ勝ち取った後、パウロとバルナバは帰途につきます。途中、彼らの伝道で勝ち取った信徒たちを励まし、また福音を告げ知らせながら帰りました。そうしてついに、彼らは旅を始めた地アンティオキアに戻りました。これで、パウロの第一次宣教旅行は終わりです。使徒 14:27 にはこうあります。「到着するとすぐ教会の人々を集めて、神が自分たちと共にいて行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した。」



この宣教旅行は大成功に終わりました。イエスの良き知らせがキプロス、および現代のトルコ中央部にあたる全域で告げ知らされました。多くのユダヤ人と異邦人が福音に応答し、イエスキリストに信仰を置くようになりました。アンティオキアの教会の兄弟姉妹たちは、パウロとバルナバの報告を聞いて、大いに喜んだことでしょう。その報告は、多くの場所で主が彼らをとおして働いてくださったことを伝えていました。また、その報告によって、できごとが知らされただけでなく、パウロとバルナバが教会に対して宣教報告をする責任があることをはっきり示しています。

聖霊の導きによって、パウロとバルナバは選び出され、旅をしながら福音を告げ知らせるといふ働きに任命されました。そして、彼らは祈りとともに教会から送り出されました。**使徒 13:3**「そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。」パウロとバルナバは、アンティオキアから送り出されました。ですから、自分たちの働きについて教会に報告するのは適切なことです。この形式は、今も受け継がれています。宣教師は派遣元の教会に報告責任がありますから、時折そこに戻って宣教報告をします。派遣元の教会は、祈りと多くの場合は経済的支援とをもって宣教師を支えています。



パウロとバルナバの働きで、ふたりはイエスを信じる多くの信徒を新たに勝ち取りました。帰途でも、パウロとバルナバはそれぞれの町を再び訪れ、信徒たちに会い、長老を任命して新しい教会を任せました。**使徒 14:23**にはこうあります。「また、弟子たちのため教会ごとに長老たちを任命し、断食して祈り、彼らをその信ずる主に任せた。」この言い回しから、複数の長老が任命され、教会の指導権がすべて長老たちに与えられたことがわかります。

使徒言行録とパウロの書簡から、これが通例だったことがわかります。主に人々が勝ち取られた場所では、教会が形成され、長老たちが任命されて、新しい教会の会衆の指導者として主にゆだねられました。ユダヤ人には指導者として長老がいました。そして、多くの初代クリスチャンはユダヤ人でしたから、教会で長老たちを任命したことは驚くことではありません。ユダヤ人の長老とキリスト教会の長老では、役割責任の上で違いはありますが、旧約聖書でも、新約聖書と同様、至る所で長老が登場します。

後に、パウロはテモテとテトスに手紙をしたため、長老を選ぶ際の基準について語っています。では、パウロがどう書いているか見てみましょう。テトス 1:5-9「1:5 あなたをクレタに残してきたのは、わたしが指示しておいたように、残っている仕事を整理し、町ごとに長老たちを立ててもらうためです。1:6 長老は、非難される点がなく、一人の妻の夫であり、その子供たちも信者であって、放蕩を責められたり、不従順であつたりしてはなりません。1:7 監督は神から任命された管理者であるので、非難される点があつてはならないのです。わがままでなく、すぐに怒らず、酒におぼれず、乱暴でなく、恥ずべき利益をむさぼらず、1:8 かえって、客を親切にもてなし、善を愛し、分別があり、正しく、清く、自分を制し、1:9 教えに適う信頼すべき言葉をしっかりと守る人でなければなりません。そうでないと、健全な教えに従って勧めたり、反対者の主張を論破したりすることもできないでしょう。」

パウロはテトスに、クレタ島にできた新しい教会のために長老を任命するよう指示しています。そして、長老に適する人物の資格をおおまかに述べています。この個所やこれに似た個所であるテモテ第一 3 章は、長老を選ぶ過程で審査されるべき人格、生活態度、霊の賜物の大筋です。

教会の指導者としての役割で、新約聖書でよく登場するもうひとつは、執事です。執事は、長老と似た人格や生活態度の基準を満たす必要がありますが、ずいぶん異なった霊の賜物の持ち主であるかもしれません。具体的には、長老には、みことばを教えたり、誤った考えの人に対して健全な教えを弁護したりする能力が必要です。一方で、執事は一般に奉仕や運営の働きが中心と見られています。執事については、最初の 7 人の執事が任命された使徒 6:1-7 の個所についてのメッセージで、詳しくお話ししました。そのメッセージを含む過去のメッセージをご希望の方は、教会のホームページで見ることができ、受付付近のインフォメーションラックにもプリントがあります。

今日の聖書個所では、教会のために長老を任命することについて書かれていますから、教会組織について少しお話する良い機会だと思えます。初代教会の会衆、エルサレムの教会は、使徒によって直接管理運営がなされていました。しかし、教会が成長するにつれ、あらゆる課題が浮上

し、その解決に助けが必要となりました。使徒 6 章では、食物の分配を管理する人が必要となり、その働きの世話役として 7 人を任命することになりました。執事は、実務的な働きの責任を受けました。それによって、使徒たちが教えと宣教に専念するためです。

教会が広がっていった数十年の間に、長老と執事が教会に置かれることが標準となりました。長老は教えと宣教に専念し、執事は奉仕と運営の働きに専念する役割です。新約聖書時代、使徒たちは福音伝道と教えを続けました。そして、各地の教会を訪れ、包括的な監督指導をしました。

新約聖書時代が終わって使徒たちの亡くなった後も、教会は同様の方法で指導がなされていきました。使徒たちに訓練された弟子たちが全体的な指導の役割を担い、各教会はそれぞれ長老と執事を置いて、独立運営するという方法です。ここで、働きの役割と教会運営組織との違いについて話しておくべきだと思います。

**エフェソ 4:11-12** を少し見てみましょう。「**4:11** そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。 **4:12** こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、」イエスは、教会に、使徒、預言者、福音宣教者、牧者、教師を与えられました。これは、5 職の働きと呼ばれることもあります。この 5 職または役職は、キリストの体なる教会を造り上げるために与えられています。

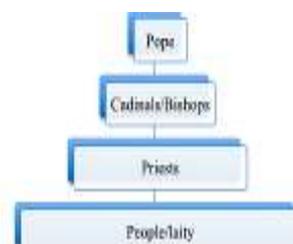


けれども、教会運営や長老・執事について語るなら、これは 5 職の働きの 5 つの役割とは異なります。重なる部分もちろんあります。例えば、長老と牧師を一人の人がすることがあります。事実、牧師はすべて、牧師という特定の役割を担った長老に過ぎないと多くのひとが主張します。一方、預言者や福音宣教者が教会組織の一部とは通常考えないでしょう。それは違った役割なのです。

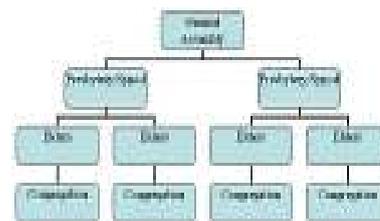
では、現代へと時代を進めてみましょう。何世紀もの時を経て、さまざまな教会運営の様式や構造が現れました。現代の教会には多様なバリエーションがありますが、基本的には教会運営のスタイルを 3 つに分けることができます。監督制、長老制、そして会衆制です。教会運営のスタイルがそのまま教団名として使われている場合もありますが、今日私が主にお話したいのは教派教団についてではなく、教会運営の様式についてです。では、それぞれを見ていきましょう。



監督制の教会運営は、縦割りの階層組織です。まず地域教会は、牧師や司祭が指導者として教会の上に立ちます。そして、いくつかの教会と牧師の上に司教がおり、何人かの司教の上に大司教や大主教がいます。カトリック教会はこのような構造で、その頂点にローマ法王がいます。ですから、ローマ法王はすべての教会を司る責任者であり、カトリック信者すべてに対して大きな権威を持っています。監督制の変型を取り入れている教派としては他に、正教徒、コプト教、聖公会、メソジスト、そして一部のルーテル教会などです。



これとは対照的に、長老制の教会組織は、誰にも強い権威を与えません。長老制の教会組織では、それぞれの地域教会は、複数の長老たちによって治められています。牧師は特定の役割を担う長老であり、他の長老たち以上の権威は有しません。複数の地域教会は、長老会などと呼ばれる長老の集合体によって監督されています。その教団に属する教会すべてから代表が集まる総会がある場合もあ



ります。長老教会と改革派教会がこの構造を取り入れている教会の例です。

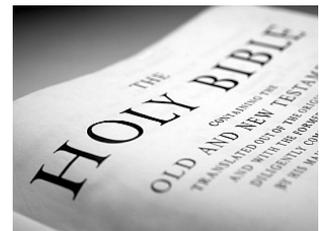
もうひとつ一般的な教会運営の方法が会衆制です。この教会構造では、それぞれの地域教会は独立政治です。すべての教会員が神の前に同じく祭司です。会衆制教会は基本的に民主制であり、重要な決断は教会員による投票で決められます。牧師と教会役員は、選出された際に会衆によって与えられた権威以外は特に権威を有しません。選出は通常、年次総会にて行われます。会衆制教会は、同様の教会と自主的に同盟や連盟を組むことがあります。投票によってそのような団体を去る決断をいつの時点でもすることができます。会衆制教会の例は、組合派、バプテスト、キリストの教会、そして、私たち大阪インターナショナルチャーチです。



また、牧師主導の単立教会があることもお伝えしておきます。これらは、牧師が完全な権威を持つ教会です。こういった教会は、ワンマン牧師の場合がほとんどです。これは、教会組織のもうひとつのあり方というよりは、教会組織の欠如といえるかもしれません。牧師があらゆる決定権を誰とも分かち合わないという状態が長年継続しているなら、そこが健全な教会かどうか懸念するべきでしょう。しかし、開拓段階の新しい教会であるなら、教会が成長して組織立っていくまでは牧師がすべて決断せずを得ない場合もあるでしょう。このような組織構造を標準とする教派や教団はありませんが、開拓時の新しい教会における一時的な方策として認める教派教団はたくさんあります。



これらの教会組織の支持者は、あらゆる聖書箇所を挙げて、それぞれ支持する根拠とします。監督制の支持者は、モーセやペトロ、パウロといった力強い指導者を挙げ、縦割制度の正当性の証だと言います。長老制の支持者は、教会に長老たちが任命された箇所を指摘します。会衆制の支持者は、万民祭司や信徒の平等を強調する聖書箇所を指し示します。それぞれの構造の正当性と利点を聖書的に根拠立てることができますが、だからといって、これらすべてが聖書に照らして同等に有効であるというわけではありません。けれども、関係する聖書箇所はすべて注意深く吟味する必要があると言えます。



なぜこのような教会組織の形について皆さんにお話するかというと、この教会が会衆制だからです。教会員はすべて平等に教会組織の一部です。毎年、年次総会で教会員が役員を選出し、教会の予算を可決します。それ以外の議案がある場合もあります。例えば、会衆が牧師を選出しますし、教会規約の改定についても検討します。それは、特権であると同時に責任でもあります。

今日の聖書箇所、パウロとバルナバは教会のために長老たちを任命しました。現在、OICは長老を任命しません。選出された教会役員はいますが、教会役員は長老の役割として作られていません。実際、この教会の役員は、長老よりむしろ執事の役割を主になしていると思います。しかし時折、役員が長老にふさわしい務めを引き受ける場合もあります。これはOICにとって最善の構造でしょうか。まだはっきりわかりませんが、いつかの時点で、私たちの組織構造に何らかの調整をすることについて祈りつつ検討したほうがよいかもしれません。例えば、現在の教会役員を執事会と改名し、それとは別に長老を任命する、などです。そうすれば、執事は奉仕や実務的な働きに専念し、長老は霊的な指導、教え、祈りに専念することができるでしょう。

今日ここでそのような改正を提案しているわけではありません。しかし、今後いくつかの改正を提案する可能性はあります。今は、皆さんにもこういったことについて祈り心で考えていただきたいと思います。どのような構造、方法が一番主に喜んでいただけるのでしょうか。この教会は会衆制の教会ですから、そういったことについて考え祈るのは、教会員一人ひとりの特権であり責任なのです。

#### IV. 結び

OICは現時点では長老を任命しません。とは言え、正式に長老と呼ばれていなくても、教会内で長老の役割をなしている教会員はいます。選出された教会役員は、長老の役割も引き受けてくださることがよくあります。ですから、今日は皆さんにお祈りいただきたいと思います。教会役員のために、そして、教会の中で長老の働きをしている人たちのためにお祈りください。

また、長老の働きをしている人たち、そして、将来その役割に召される人たちには、ペトロが当時の長老たちに与えた指令をお分かちします。最後に、ペトロ**第一 5:1-4**をお読みしましょう。

「**5:1** さて、わたしは長老の一人として、また、キリストの受難の証人、やがて現れる栄光にあずかる者として、あなたがたのうちの長老たちに勧めます。 **5:2** あなたがたにゆだねられている、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をしなさい。卑しい利得のためにではなく献身的にしなさい。 **5:3** ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい。 **5:4** そうすれば、大牧者がお見えになる時、あなたがたはしばむことのない栄冠を受けることになります。」

#### V. 祈り